

広島大学 校友会だより

特集
就活

キャリア
デザインの
ススメ



Hiroshima University Alumni Association

広島大学校友会



広島大学校友会だより Vol.19 CONTENTS

報告 第9回広島大学ホームカミングデー 3-6
11月最初の土曜日は広島大学ホームカミングデー
学部・研究科でも「ホームカミングイベント」

特集 就活 キャリアデザインのススメ
..... 7-14

江坂宗春グローバルキャリアデザインセンター長インタビュー
キャリアデザインのためのプログラム
私たちのキャリアデザイン ほか

校友会SUPPORT FILE 15-16

課外活動援助団体
水中ホッケーサークル Hiroshima Sha-rea
ドリームチャレンジ賞受賞
学生ボランティア団体 OPERATIONつながり



広島大学校友会は
在学生の活動を支える組織です。
是非とも皆様のご入会を
お願いいたします。



広島大学長
広島大学校友会会長
越智 光夫

広島大学校友会は在学生への支援、広島大学に関わる人たちのネットワーク強化のため、平成19年に設立されました。

「頑張る在学生を応援しよう!」「広島大学を盛り上げよう!」という強い意志で、会員の皆様からの貴重な会費を学術研究助成、ドリームチャレンジ賞、課外活動支援、就職活動支援などの学生支援やホームカミングデーの開催のために活用させていただいております。

校友会の志をご理解いただき、多くの広島大学にゆかりのある方々にご入会いただければ幸いです。

何卒宜しく願い申し上げます。

東広島キャンパスの桜並木 撮影：倉増和真(教育学部4年)

表紙の写真 水中ホッケーサークル Hiroshima Sha-reaの活動 15ページに紹介

先輩インタビュー 17-18

株式会社フジ 代表取締役社長

尾崎 英雄さん

(1976年水畜産学部卒業)

失敗した分だけ人は成長する。
成長して組織の財産になる。

広島大学 NEWS PICK-UP 19-20

広がる広大ネットワーク 21-22

体育会同窓会創立50周年記念総会・祝賀会、広島大学・千田塾、東京広大会 ほか

校友会レポート 23

平成27年度 学生支援報告

第9回広島大学ホームカミングデーを開催しました。

11月最初の土曜日は 広島大学ホームカミングデー

平成27年のホームカミングデーは11月7日（第一土曜日）に開催。毎年メイン会場となっているサタケメモリアルホールが、耐震補強工事のために使用できないにもかかわらず、ホール前広場の野外ステージなどを会場に、多彩なプログラムを展開。広島大学卒業生、校友会会員、東広島市民など約3,400人で終日にぎわいを見せた。



10:00 サタケメモリアルホール前広場

早くから受付をすませた来場者のために広島大学吹奏楽団有志のウエルカム演奏とグリークラブOBの合唱が出迎えた



司会は中国放送アナウンサーの久保田夏菜さん。文学部卒業生でリズムダンスサークルOG

11:00 オープニング

越智光夫広島大学長・校友会会長のウエルカムスピーチで、第9回広島大学ホームカミングデーは開幕



開会宣言は越智学長・校友会会長

特設ステージに並ぶ来賓、主催者の前で学長のご挨拶



グリークラブOBとともに来賓、主催者、参加者が大学歌を高らかに歌い上げた



a.m. サタケメモリアルホール前広場



●連携市町の物産展

今回は東広島市、三次市、北広島町から14ブースが出展。広島大学生協、広島駅弁も参加した

●HCD 学生チーム企画ブース

毎年恒例となった「思ひ出の味～広島お好み焼き」は今年も人気、早々に完売となった



来場者メッセージで樹を繁らせようという学生チームの新企画



広島大学卒業生・在学生の写真でキャンパスを囲もうという手つなぎ写真。今年も写真を増やすことができた

キャンドルサークル灯、きつぷ☆サイエンスクラブなどサークル体験ブースにもぎわった





クラブ・サークルのパフォーマンスが繰り広げられた



14:00 HCD スペシャル

野村謙二郎氏トークショー 法学部・経済学部講義棟 255 教室

広島東洋カープ前監督の野村謙二郎氏のトークを間近に聴けるとあって、会場は満員の盛況。入りきらない来場者のために近接する大教室では大画面中継も用意された



“闘将”のイメージが強い野村前監督だが、ユニフォームを脱げば気さくな紳士。広島テレビ放送の宮脇靖知アナウンサーの進行で、高校、大学、プロと野球一筋のこれまでを語った。満員の会場からは時折笑い声が起こり、あたたかい雰囲気包まれた



立ち見もぎっしりの会場

15:30 学生会館レセプションホール

懇親会

同窓生、教職員、保護者の方々、在学生……さまざまな人が立場や年齢を超えて絆をつなぐ懇親会



ゲストとして懇親会に参加してくれた野村さん。ここでも大人気



恒例の「広島大学の歴史」展
懐かしい写真に見入る人の姿が途切れなかった

17:00 東広島天文台

観望会

恒例の観望会。「世界有数の天体望遠鏡で宇宙を見てみたい」人たちが参加。法人本部棟前からバスで送迎した



第9回広島大学ホームカミングデー 学部・研究科企画

学部・研究科でも 「ホームカミングイベント」

ホームカミングデーでは、学部・研究科独自の企画も行っています。卒業生や元教職員に集まっていただける場をつくりたい。在学生保護者にわが子が学ぶ場を訪れてほしい。一般の方にも学部・研究科を広く知ってほしい。それぞれ特長あるホームカミングデー企画を実施しました。



文学部・文学研究科

文学部で味わう世界のティータイム

【主催者レポート】

留学生の母国を味わう企画にリピーターも多数

文学部・文学研究科で学ぶ留学生が、それぞれの母国の飲み物とスイーツをふるまいながら自国の文化や生活を紹介する恒例企画。リピーターも多く、会場は開始前から満席でした。今回は台湾、スペイン、韓国からの留学生が、文学部生の進行のもと、動画なども使い母国について日本語で語ってくれました。参加者も、凍頂烏龍茶やカモミールティー、ユルム茶にそれぞれの国の文化を感じながら、熱心に耳を傾けていました。

教育学部・教育学研究科

【共にまなぶ・はたらく・くらす】
(特別支援教育学講座)

特別支援教育学講座・特別支援教育実践センターの教員が取り組んできている研究内容を中心に展示・発表を行いました。



「人間生活を考える～暮らしの伝承と創造～」(人間生活教育学講座)

60周年を迎える人間生活系コース同窓会と共催で、研究成果紹介と手づくり作品の展示・販売を行いました。



オペラ名場面集
(音楽文化教育学講座)

在学生、大学院生、教員が協力して小道具、大道具、舞台装置、照明、衣装などを製作。有名なオペラハイライトを上演しました。



総合科学部・総合科学研究科

日本人学生及び外国人留学生による留学報告会

総合科学部後援会総会

海外留学から帰国した日本人学生と、広島大学に留学してきた外国人留学生の報告会を開催。また、その後総合科学部後援会総会を開催しました。



法学部・経済学部・社会科学部

講演会 大学院社会科学部
原口恭彦教授

大学院社会科学部の原口恭彦教授による講演会「近年における人材マネジメントの動向について」を開催しました。



工学部・工学研究科

講演会 / 保護者のためのオープンキャンパス

【主催者レポート】

研究室見学などに多くの保護者が参加

ホームカミングデーを機に、工学部3年生と工学研究科修士課程1年生の保護者を対象にした企画を開催しました。事前の案内に対して、応募を締め切った後も多くの問い合わせをいただくほど反響は大きいものでした。当日は卒業生、一般の方も参加して研究室見学を実施。参加者から非常に好評をいただいたので、これからも継続的に開催していく予定です。

先端物質科学研究科

研究室公開 / パネル展示 / 講演会

研究室公開では、5つの研究室が研究テーマの解説や実験、装置の紹介を行いました。その後、分子生命機能科学専攻、半導体集積科学専攻に分かれて講演会を開催しました。



国際協力研究科

IDEC Open Day 2015

Welcome to IDEC

～世界の国からコンニチハ!!～

研究科前の広場にステージを設け世界の歌や踊りを披露。伝統料理やゲームを楽しむブースの売上はネパール大地震被害者に寄付しました。



生物生産学部・生物圏科学研究科

研究科創立30周年記念事業 〈練習船豊潮丸〉見学/記念シンポジウム/ 生物圏科学研究科附属施設キャンパスツアー

【主催者レポート】

研究科創立30周年から未来を展望

生物圏科学研究科の創立30周年を記念して同窓生が旧交を温める場を設定し、あわせて現在の研究科の状況や今後の展望を知っていただきたいと、記念事業を企画しました。公開シンポジウムは前研究科長の谷口名誉教授に講演をお願いし、教職員や大学院生などが出席。HAKUWA ホテルに場所を移しての祝賀会では、企業や自治体で活躍する卒業生から研究面での連携協力のあり方や同窓会機能の強化などの意見が寄せられました。



霞地区合同 11月14日(土) 霞キャンパス

(医学部・歯学部・薬学部・医歯薬保健学研究科・
原爆放射線医学研究所・大学病院)

講演会 なぜ、「これ」は健康にいいのか?

順天堂大学医学部教授 小林弘幸氏



理学部・理学研究科

生物科学同窓会記念講演会

【理学部生態実験園の思い出】

豊原 源太郎氏

元広島大学理学研究科附属宮島自然植物実験所助教授の豊原源太郎氏(昭和40年本学理学部卒)の講演会を開催しました。



地球惑星システム学専攻

【第5回 DEPSS 広島セミナー】

原都夫先生「私の研究法」、沖村雄二先生「在籍45年—何をしたか」、石原舜三先生「花崗岩さまざま」、嶋本利彦先生「地震を実験で再現する」と、4人の卒業生の講演を開催しました。



【主催者レポート】

自律神経をコントロールして健康生活

霞キャンパスのホームカミングデー企画は東広島キャンパスの1週間後に開催しました。今年は冷たい雨が降ったりやんだりというあいにくの天気でしたが、会場の広仁会館はほぼ満席となりました。やはりテレビに登場する機会も多い小林先生の人気かと思われます。テーマは、自律神経の重要性。健康な生活の基盤となる示唆に富んだ内容でしたが、ユーモアも交えた小林先生の軽妙な語り口に、笑い声が多くある和やかな講演会となりました。

就活

キャリア
デザインの
ススメ

江坂宗春

広島大学
グローバルキャリアデザインセンター長
インタビュー

「大学は就職予備校ではない」という声もありますが、やはり、大学生にとって就職は一生を左右する大きなテーマです。

広島大学は平成10年、国立大学で初めて「学生就職センター」を設置し、在学生の就職活動を支援する体制を整えてきました。

さらに、平成16年には「キャリアセンター」と名称を変更。

就職活動に関する情報提供や受験指導と並行して、在学生の将来を見据えて、

人生設計の基礎づくりからサポートすることを目標として掲げました。

そして、昨年からは「グローバルキャリアデザインセンター」へ。

広島大学が目指す就職サポートとはどんなものか。

直近の広大生の就職状況の分析から広島大学に求められる人材教育まで、グローバルキャリアデザインセンター長へのインタビューです。

広島大学では、毎年就職が内定した在学生が「キャリアサポーター」として後輩をサポートする。今年も30余名がガイダンスや個別相談に応じた。この日は10人のキャリアサポーターが集まってくれた。



江坂 宗春

副学長(学生支援担当)
グローバルキャリアデザインセンター長
大学院生物圏科学研究科教授

酵素化学研究者であり教育者であると同時に、在学生の立場に立って学生生活をサポートする立場でもある。研究室と学生支援室、そしてグローバルキャリアデザイン室を行き来するが、忙しくても笑顔を絶やさない。「教育は機会を提供すること」と、制度の拡充、インターンシップやボランティア先の開拓に力を入れている。

景況に左右されることなく 社会から“選ばれる人材”を 送り出していく キャリアデザインプログラム

—報道では、平成27年度大学新卒者の就職は“売り手市場”だと言われています。大学生の就職環境は本格的に改善してきたのでしょうか。

江坂 そうですね。学生の動きを見ると、確かによくなっています。

でも、じゃあこれまでは本当に広大生が“就職氷河期”だったかと言えば、数字上は必ずしもそうではない。実は、その頃も^{※01}民間企業への就職率は、結果的にはさほど下がってはいなかったんですよ。ただ、全体に公務員・教員志願者が急増して、かなり影響を受けました。また民間でも、企業の採用見合わせで進路を変更せざるを得なかった人もいたはずで、それを思うと心が痛みます。

—数年の違いで就職環境が大きく変化するのは怖いですね。来年の経団連の選考解禁時期申し合わせも紆余曲折がありましたし、「自分が卒業するときはどうなるのだろうか」と不安もあるでしょうね。

江坂 そうですね。現実問題として、大学生の就職が社会情勢に左右される

のはある程度仕方ないとは思いますが、大学としてはそう言うてはいられません。受け入れパイの大小にかかわらず、社会の将来に必要な、選ばれる人材を育てていくのが私たちの使命です。今が好調だからと言って安心するのではなく、また“就職率”という数字だけを考えるのではなく、どんな時代でも、学生が志望どおりの進路を選択できるような力を育ててあげたい。それが本来の就職サポートだと考えています。

—本当の意味で“就職に強い大学”ということでしょうか。

江坂 そうですね。必ずしも有名企業や研究機関へ、という意味ではありませんよ。学生にはそれぞれ個性や適性があるし家庭の事情も違います。一人ひとりが考えて「こうしたい」と思ったことを実現できる。そういう視点に立ったキャリア教育が必要だということです。もちろん、就職活動そのものへの支援は続けていきますが、それと並行して、就職市場においても今以上にレベルアップを図っていきたい。

こういう取り組みは“就職率”という数字には現れませんが、学生にとっては、全体の数字ではなく「自分の志を実現する」ことの方が大事だと思います。

優秀な学生には大学院への進学も勧めています。

ビジネスが変わり 社会人としての基礎づくりが 大学教育の一つとして 期待されるようになった

—グローバルキャリアデザインセンターという名称には、そういう意味がこめられているのですね。

江坂 単に就職活動をサポートするだけでなく、学生のみなさんに卒業後の生き方を見据えて大学生活を考えてほしい、そのためのサポートをする、という目標がグローバルキャリアデザインセンターにはあるんですよ。だから、センターの^{※02}支援プログラムは入学と同時にスタートします。

—え、1年生からですか。

江坂 新入学時のオリエンテーションからスタートして、1年次前期の教養ゼミに^{※03}「地域社会探検プロジェクト」を組み込んでいます。2年次からはキャリア教育科目が開講しますしね。大学に入学するとホッとして気を緩めてしまいがちですが、いざ就活となって「自分の将来は」と考えても遅い。どんな社会人になりたいのか、何をを目指すのか、できるだけ早くから自分と向き合うことが大切です。

大学入学はゴールではなく社会人になるための中間地点に過ぎない。“社会”と

※01 民間企業への就職率推移



※02 キャリアデザインのための支援プログラム

広島大学での在学期間を通して、グローバルキャリアデザインセンターが将来の人生設計を支援するプログラムを用意している。(詳しくは11ページ)

※03 地域社会探検プロジェクト

講義と実習でインターンシップやボランティアを体験する科目。まず実社会を体験し、それをきっかけに、大学での学習の意味や将来の進路について考える姿勢を育てることが目標。



学生なら、どなたでも。
就職・キャリア支援の
ワンストップサービス

いう目標に向かって自分のキャリアをしっかりデザインしてほしい。そのサポートをするのがグローバルキャリアデザインセンターです。

—大学は専門的な勉強をするところだと思っていましたが、それだけでは足りないのでしょうか。

江坂 専門的な勉強は必須ですが、即戦力として仕事をするには、知識や技術に加えて、人と協働したり組織を動かしたりする力が必要なのです。従来は^{※04}企業内研修でやっていたことですが、現在のようにビジネスのサイクルが速まっているなか、それではやっていけない。社会人としての基礎教育も大学の教育の一つとして期待されるようになってきた。

実際、仕事のやり方もずいぶん変わっていますよね。分業化が進んで組織として動くことが多くなっています。研究職にしても、「一人でコツコツ好きな研究をしていればいい」という時代ではない。実験、検証、情報収集など多数の人がチームを組んで進めることが多くなっています。ましてや、企画や商品開発はさまざまな部署の知恵を出し合って進める仕事です。そういう意識を持たなければ、大学で学んだことも活かすことが難しい。逆に、高度な専門知識は組織の力で、100人分、

1万人分の成果をあげることができる。社会のシステムが、従来とは大きく変化しているのです。

インターンシップや ボランティアは 社会経験の第一歩 まず踏み出してみよう

—就活でコミュニケーション能力やリーダーシップが求められるというのはそういうことなんですね。でも、どうやったらそういう力を身につけることができるのでしょうか。

江坂 教科書を読んで身につくとか、先生に教えてもらって分かるようになる、というものではありませんよね。大事なことは“自分で考え、経験すること”です。いろいろな人と交わり、組織として動くことを身をもって体験し、その中での自分の役割を考えるプロセスの中で育つものです。大学としては、体験する、経験する機会をできるだけ多く用意して、学生に学んでほしいと思っています。

まず、1年次から大学の外に出て社会と交わる機会を増やしていく。^{※05}インターンシップや^{※06}ボランティア参加などを考えていきます。

—1年生からインターンシップですか？

江坂 1年生でも2年生でも、インターンシップはどんどん参加した方がいい。できるだけ早く、社会を知ることが大事なのです。社会がどんな仕組みで動いているか、どんな人がどんな業務でその仕組みを動かしているのかを見聞することができます。1年生で体験すれば必ず、4年間あるいは6年間の過ごし方が違ってきますよ。大学生活を有意義に過ごすためにも必要です。

—就職のためのインターンシップとは違うんですね。

江坂 そうですね。就職を前提にした企業体験というよりも、社会体験と考えた方がいいかもしれません。だから業界や業種を決める必要はない。むしろ、多様な業界を経験することを勧めたいくらいです。

ボランティアも同じ。災害があったときのボランティアではなく、地域社会で“学生”という立場のままお役に立てることを受け持つ体験です。自治体や地域の福祉センターで社会や人間を直接学びながら、自分に何ができるか、自分は何をしたいか、地に足をつけて考えてほしい。広島大学で何を学ぶか、どんな学生生活を送るべきかが見えてくるのではないのでしょうか。

※04 企業内研修

社員採用後、自社の業務に必要な知識やスキルを身につけるための研修。集合研修だけでなく、現場で仕事をしながら教育するOJTもある。

※05 インターンシップ

企業などにおける学生の職業体験。数日間から長期にわたるものまで期間はさまざまだが、多くの場合は無給。

※06 ボランティア

自発的な奉仕活動。災害の復旧に役務を提供するボランティアだけでなく、広く社会福祉活動全般への参加を意味する。



民間等で活躍したキャリア専門相談員との面談

—目指す目標が具体的に見えたら、確かに学生生活は変わってくるでしょうね。

江坂 就職という“ゴール”直前になって「こうしておけばよかった」と後悔しても遅い。スタートしたときから、ゴールのイメージを描いて、自分を変えていく。それがキャリアデザインです。

短期研修、海外留学、留学生との交流……国際化が進む社会を学生時代に経験する

—キャリアデザインの前に「グローバル」という言葉がついていますね。

江坂 「国際化」は現代のキーワードでしょう。ビジネスでも研究でも、国際競争、国際連携、両方を含めて国際化が進んでいます。さまざまな企業や自治体までもが海外での事業展開を考え、海外からの観光客で日本経済が活性化している時代ですからね。官庁か民間か、首都圏か地方かなんて関係ない。業種や企業規模に関わらず、グローバル化は進んでいくでしょうし、この流れは止めることはできません。

まして、広島大学は文部科学省の^{※07}スーパーグローバル大学創成支援事業で「世

界大学ランキングのトップ100を狙う実力がある大学」として^{※07}トップ型に採択された大学ですから、グローバルな舞台で活躍できる人材を育てることは、社会的な使命でもあります。

—キャリア設計を考えると、海外に伍していける人材をめざしてほしいということですね。

江坂 そのために、広島大学では海外を経験する機会を多く用意しています。1年生だけを対象にした^{※08}STARTプログラム、これをぜひ利用してほしい。短期の海外研修ですが、これまでの事例を見ると、参加した学生は大きく成長しています。知らなかった国を体験することで自分をしっかりと見つめるようになっていきますね。

留学しなくても、キャンパスの中で留学生と交流することはできます。学部、大学院に世界70カ国から1,284人(平成27年11月1日現在)の留学生が集まっているので、日常生活の中で異文化とお付き合いできる。多様な人と交わることが重要なんです。グローバルキャリアデザインセンターの就職支援は、留学生も対象です。もちろん、障害のある学生や、大学院、博士課程の学生の就職も支援しています。広島大学は大学院重点大学でもありますね。

広島大学を社会との接点としてそれぞれのキャリアをスタートさせてください

—いろいろな機会をとらえて社会体験ができるということは分かりました。1年生でも、グローバルキャリアデザインセンターに行けば、そういう相談ができるのですか。

江坂 1年生でも2年生でも構いません。センターにはキャリアデザインのためのいろいろな情報が集まっていますし、企業経験のある相談員も常駐しています。就職の内定した学生が“キャリアサポーター”としてサジェスションもします。何でも相談してください。学生プラザの2階です。

—グローバルキャリアデザインセンターに行ったら誰かに声をかける。それが社会とつながる第一歩になるんですね。

江坂 いきなりセンターを訪ねるのはどうも……という人は^{※09}チューターの先生に相談してみてください。学生にとって、一番身近なのはチューターかもしれません。広島大学は、誰かが学生を見守る体制を整えていますから安心してください。

※07 スーパーグローバル大学

創成支援事業 タイプA(トップ型)
世界レベルの教育研究を行う大学や、先導的試行に挑戦し大学の国際化を牽引する大学などを支援する国の事業。トップ型は世界の大学ランキングでトップ100を目指す力があるとして国が支援する大学。

※08 STARTプログラム

海外経験の少ない新入生を対象に、海外の大学やその周辺都市を訪問し国際交流や留学への関心を高めるきっかけをつくるプログラム。大学が費用の一部を負担する。

※09 チューター制度

新入学生に1人の教員が付き、大学生活全般の指導や相談に応じる制度。チューターは学科ごとに決まり、在学中を通して1人の教員が担当する。

キャリアデザインのための プログラム

それぞれの目標を見つけてほしい

キャリアデザインは大学生活を通して学生が自分で描くもの。大学ができることは、限られた学生生活を無為に浪費してしまわないよう、在学生在自分を見つめ目標を見出すための“きっかけ”を提供していくことです。広島大学グローバルキャリアデザインセンターは、1年次から卒業まで、それぞれの年次に応じたプログラムを用意して、学生一人ひとりが社会における自分の目標を見つけられるようサポートしています。



広島大学独自開催の合同企業説明会

1年次生から活用できる進路・職業選択支援プログラム

将来の進路や職業を早期に考えるきっかけを提供します。

●オリエンテーションキャンプでの

キャリアデザインガイド

オリエンテーションキャンプは、新入学生のために各学部が企画するキャンプ。広島大学での学び方などをナビゲーションします。ここで、グローバルキャリアデザインセンターの専任教員が将来の進路を早期に考え、目標を見据えながら行動することの大切さを説明します。

●教養ゼミ

各学部からの要請を受け、センター専任教員がキャリアガイダンスの講座を担当。学生は選択科目として受講することができます。「地域社会探検プロジェクト」もその一つです。

●キャリア教育科目開講

2年次以降の学生を対象とした教養教育科目で、センター専任教員が「職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—」、「キャリアデザイン概論」を開講。

●大学運営支援業務紹介

希望する在学生在が広島大学の業務にアルバイトとして従事し社会体験ができるよう紹介。「フェニックス・アシスタント(PA)」と「学内一般アルバイト」の2種があります。「フェニックス・アシスタント」は1か月以上と比較的長期にわたるもので、図書館の窓口・資料整理業務等。「学内一般アルバイト」は雇用期間1か月未満と短期間のもので、単純労務作業

などの軽労働に従事します。いずれも賃金が支払われます。

●インターンシップ紹介

学部2・3年生などを対象として、キャリアセンターが受入先を開拓した全学インターンシップや、広島県庁、呉市役所、広島県警、広島法務局及び文部科学省などに学生を派遣するインターンシップなどを紹介しています。



OB、OGによる就職説明会

卒業の前年次生からの就活支援プログラム

自律的な就職活動ができるように支援を行います。

●就職ガイダンス、セミナー

「自己PRのための自己理解」、「就職情報の収集術」など就職活動の基本に関するガイダンスや「業界研究・企業・職種研究の進め方」「エントリーシートの書き方」「面接の受け方」など就職活動の実践的なガイダンスを実施。公務員試験

に絞り込んだガイダンスや企業・業界セミナーなど就職に直結するセミナーも開催しています。

●キャリア相談

民間企業経験のある相談員やグローバルキャリアデザインセンター教職員が進路に関する相談に応じます。



東京・大阪への就活バスツアー

広島大学

グローバルキャリアデザインセンター
TEL 082-424-6182/4346

校友会も、グローバルキャリアデザインセンターと協力して、
卒業生の就職セミナー開催などの支援を行っています。

可能性を拡大する 海外研修・留学プログラム



経済的負担を抑えて経験値を高める

視野が広がり意識が向上すると、実績が評価されているのが海外留学。広島大学では、海外を経験できるプログラムを豊富に用意しています。語学をはじめ制度を利用するための要件はありますが、ハードルは低く設定してあります。また、費用の一部を広島大学が負担するものや、留学先大学の授業料負担のないもの、留学のための奨学金が利用できるものなど、費用負担を抑えて留学できる方法もあります。卒業を延期することなく長期留学することも可能です。



STARTプログラムによるオーストラリア留学

海外研修・留学プログラム

導入型プログラム

プログラム名	対象	派遣先	期間
STARTプログラム	学部1年次生	アジア、オーストラリア、米国など	2週間程度
台湾ショートビジット	全学部・研究科生	台湾	10日間

語学研修プログラム

プログラム名	対象	派遣先	期間
エクセター大学(アカデミー) 英語研修プログラム	全学部・研究科生	イギリス	1カ月間
English Plus ALOHAプログラム	全学部・研究科生	アメリカ(ハワイ)	3週間
夏季フランス語研修プログラム	2年次生以上	スイス(ローザンヌ)	3週間
ハンブルク大学ドイツ語サマースクール	学部生のみ	ドイツ	1カ月間程度
HUSAショートプログラム	全学部・研究科生	ロシア、中国、韓国など	2~3週間
慶熙大学夏季韓国語短期研修	全学部・研究科生	韓国	3週間
中国語・中国文化特別研修	全学部・研究科生	中国	3週間程度
華語・台湾文化特別研修	全学部・研究科生	台湾	2週間程度
輔仁大学短期語学研修	全学部・研究科生	台湾	4週間程度

本格留学

プログラム名	対象	派遣先	期間
HUSAプログラム(交換留学)	全学部・研究科生	提携大学	1学期間または1年間
USAC [®] プログラム(交換留学)	全学部・研究科生	提携大学	1学期間または1年間
AIMS-HUプログラム(交換留学)	全学部(専門分野の指定あり)	ASEAN協定大学	5カ月程度(1学期間)

●このページに掲載しているのは学部・研究科を問わず広島大学在学生在が応募できるプログラムです。

学部・学科・研究室単位の留学プログラムもあります。

●海外でビジネスや研究を経験するインターンシップもあります。



HUSAショートプログラムで釜山大学留学



USACプログラムでネバダ大学へ交換留学

【海外留学・研修に関するご相談は】
広島大学
教育・国際室 国際交流グループ
TEL 082-424-6182/4346

私たちのキャリアデザイン

チャンスを
最大限活かしたい

海外研修、留学で視点をレベルアップ 理想の将来像を描けるように

本多 真二郎さん

(経済学部4年)

三菱商事株式会社内定



ほんだ しんじろう ● 大分県出身。小中高時代は硬式野球に打ち込む。大学での収穫は留学体験。努力への基準値が上がり、世界情勢・事件などへの当事者意識も芽生えたと言う。広島大学の留学アドバイザー、キャリアサポーターでもある。

初めての海外経験がSTARTだった

広島大学の「STARTプログラム」は新入学生向けの短期留学研修制度。私はこのプログラムでインドネシアに行きました。生まれて初めての海外です。現地ですぐ日系工業団地を訪問したとき、この団地の開発・運営を行っているのが日本の商社だと知り、抱いていたイメージを超える商社の仕事に興味を持ちました。それから、インドネシアの学生の考え方がしっかりしていること、母国語ではないのに英語力が高いのにも驚かされました。とにかく、ものすごく刺激を受けた研修でした。私、実は英語が苦手だったのですが、帰国後猛勉強を始めて、1年間でTOEICの点数を500点アップさせることができました。

3年生から4年生にかけて約1年間、今度は交換留学制度を利用してシンガポール大学に留学。帰国したのが4年生の5月なので、就活は正味2カ月くらいです。インターンシップは経験していません。

留学中に国際ビジネスの現場を体験

しかし、留学中に、日系企業をサポートする現地の会社で情報整理などの手伝いをしたんです。日々動いているビジネスの現場を体験できたことは、ものすごくプラスになりました。現地駐在の商社マンや日本から進出している企業の方と接触できたことも、日本ではできない、留学生ならではの経験だったと思います。

学生から企業に向けてプレゼンする“逆求人”も利用して、複数社から内定をいただきましたが、大局的な視野で世の中に貢献出来る商社の魅力を諦めきれず、初志を貫徹しました。また、人事担当者をはじめ社員の方のひたむきな印象が決め手となりました。

商社マンとしての目標ですか……まず“これが自分の強み”と言い切れる商材を見出すこと。できたらそれを、国内外で雇用を生み出すビジネスにつなげていきたい。国レベルの経済発展に貢献できることが商社マンの喜びだと思っていますから。

地元で
仕事をしたい

インターンシップで企業を肌で感じる 大学での経験を地元でどう活かすかが次の課題

吉良 紗矢香さん

(文学部4年)

株式会社エム・バック内定



きら さやか ● 愛媛県出身。広島大学文学部では言語学を専攻。ドイツに1カ月間留学したときの経験から、「あげる」「もらう」など物事の授受を表す言葉を日独で比較し卒業論文にまとめた。内定後は大学のキャリアサポーターに。

インターンシップで 多くの企業を知りたかった

「卒業したらUターンしよう」と、早い時期から考えていました。愛媛県で生まれ育って、広大に入学して初めて家を離れたのですが、卒業後はやはり地元に戻りたいと。人も町もゆったりしていますから。

問題は就職先です。まず、愛媛県の公務員のインターンシップに参加し、これを皮切りに、1日体験も含めて8社の職場で実務を経験しました。なかには採用予定がないという会社もありましたが、「インターンさせて下さい」と頼み込んで受け入れていただきました。妥協せずに就職先を決めるために、企業とか組織というものを勉強したかったです。

第一志望の会社から内定をいただいたのは4年生の7月。文具やラッピング商品などを企画・製造する会社です。しかし「お返事をする前に2日間のインターンシップを」とお願いしました。最終的に、自分の肌感覚で確かめたいと思ったんです。社内全部門を回り、社員の方とも直接お話しして納得できたの

で入社を決めました。女性社員も多数活躍されており、「私も長く勤めたい」と思っています。

クラブを盛り上げた経験が 自信になった

就職のことを意識していたわけではありませんが、振り返ってみれば、クラブなどいろいろな経験が、すべて今に結びついているような気がします。特にエスキーツ部で、控えめなメンバーをまとめて団結力の強い活気あるチームをつくっていった経験は社会人になって役立つんじゃないかと思っています。大学のアクセシビリティセンターで障がいのある人のために講義を文章にするお手伝いや、ドイツへの短期留学を経験して、視野がグーンと広がったような感じがしています。

せっかくいろいろな経験をしたのだから、生まれ育った愛媛県を盛り上げることに役立てていきたい。内定企業の本社は四国中央市にあります。このあたりは紙の町として知られたエリア。自社商品を媒体に、私も何らかの形で地元活性化に貢献できればと思っています。

世界で
仕事をしたい

ボランティア活動をとおして 組織マネジメントという課題に出会う

一木 星さん

(国際協力研究科博士課程前期2年)

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 内定



いちぎ あかり ● 広島県出身。経済学部を卒業後、大学院へ。ホームカミングデー学生スタッフ、キャリアサポーターとしても活動。在学中のインド訪問は3回。インドの魅力は「多様な文化と人々の圧倒的な生へのエネルギー」だそう。

転機は東日本大震災

考えたら、私、大学ですいぶん変わりました。小さい頃からピアノとクラシックバレエを続けていて、それ以外の世界を全く知らなかったんです。ただ、それが自分の道だと考えたことはなく、「何がしたい」という目的もなく、何となく「大学に入ったらあちこち旅行をしよう」と思っていた。決して“意識高い系”ではありません。ところが、1年生の春休み、東日本大震災が起きたんです。これが転機でした。

「何かしたい」と、学生ボランティア団体「OPERATIONつながり」に所属し、試行錯誤しながら活動を行いました。その活動が広がり、インドの教育を支援するプロジェクトに携わるようになって、単身インドへ。各地のNGOを回って子どもたちの放課後教室を開くなどの活動をしたのですが、そのとき気づいたのは組織と人の問題です。NGOによってあまりにも能力差が大きすぎるのです。

国際組織で自分の目標を実現したい

ボランティアは個々の人間の活動としてとらえられがちですが、それではいけないんじゃないか。「私が日本に帰ったらおしまい」ではなく、人間が変わっても一定の水準で長く支援が続けられる仕組みを考えるべきじゃないか。私は経済学を勉強していたので、そういう視点で支援活動を見直すようになりました。それを考えるためにもっと勉強したい。そこで、大学院(国際協力研究科)に進学しました。

1年のとき、JICAの5週間のインターンシップに参加。職員の方と話し、実務に携わったことで働くイメージが固まり、内定後に「アフリカの初等教育に関わりたい」という具体的な希望を出すことができました。

私にとって就職は、これまでの活動の延長のように思います。大学から専門機関に拠点を移しますが、自分の軸を信じて進んでいくつもりです。

想いを
実現したい

テストの点数よりも“好き”が大事 その思いを実現するための就職でした

川内 達也さん

(理学部卒)

平成27年4月株式会社Legaseed入社



かわうち たつや ● 徳島県出身。理学部物理学科在学中は広大生協のPCSS(パソコン総合サポート)スタッフを務めた。理系だが、全く分野の違う人材系の会社に入社。人材採用・人材教育・人事制度設計といった人事コンサルタントとして活躍している。

「好き」を貫く仕組みを考える

私には「したいこと」がありました。「子どもたちが好きなことを勉強できる仕組みをつくりたい」——そう思うようになったのは高校生の頃。テストの点数よりも「やりたい」という気持ちを育てる方が結果的に子どもは伸びるのではないかと考えたのです。

私自身は「好きなことを勉強したい」と理学部に進学したのですが、「教育に対する志を実現するために教職に就くべきではないか」という迷いをずっと抱えていました。でも、教職に就いても自分一人ではできないことには限界があります。それより「仕組み」を変えることができないか……と考えていたとき、「人事コンサルタント」という職業があることを知りました。学生の個性や特性を活かし「自分にしかできないこと」で価値を生み出し、企業の採用ニーズとマッチングさせるのです。「採用の仕組みを変えれば教育も変わらざるを得ない」と確信を持つようになりました。

「安定」以上のモチベーションがある

友だちのほとんどが大学院に進学するなかで「民間企業への就職」は周囲には不思議だったことでしょう。「大学の勉強をムダにするのか」と言われたこともあります。Legaseedが創業1年という、いわゆる「ベンチャー企業」だったこともあって、実家でも心配だったようです。でも、私自身は説明会で役員の話や聞くなかで「それぞれの理想を実現するために一緒に努力すること」を得心していたので揺らぐことはありませんでした。安定しているか不安定かは、私にとっては重要な判断基準ではなく、「自分がやりたいことを社会に提案できる」ことの方が重要だったので。

「はたらくを、しあわせに」はLegaseedの経営理念ですが、私の理念でもあります。これを共有できることが、就職に対する最大のモチベーションだと、私は信じています。

アジア大会での優勝を目標に 息の合ったチームプレーに磨きをかける

第9回
課外活動援助団体

水中ホッケーサークル Hiroshima Sha-rea (シャーレア)



シュノーケルやフィン、水中マスクなどを着用して水中に



大切なのは、どんな状況でも落ち着いて周囲の動きを判断すること

設立からわずか3年で全国大会優勝！

水中に潜ったプレーヤーが、水底に沈んだパック（小円盤）をスティックで弾くようにパス。別のプレーヤーが素早く次のパスへとつなぎ、相手ゴールにシュート。日本ではまだ競技人口の少ない「水中ホッケー」に情熱を注いでいるのが、「Hiroshima Sha-rea」のみなさんです。設立から3年、部員は学部生と院生を合わせて6人。OBを含む社会人を交えてチームを結成し、昨年9月の「水中ホッケー日本オープン大会」では見事に全国優勝を果たしました。さらに同年11月の「アジア国際親善大会」に、日本代表として同チームから8人のメンバーが参加。Aグループ3位・Bグループ2位の好成績を収めています。

巧みな連携プレーが勝利を左右する

「アジア大会1位を目標に結成したサークルなので、現状に満足せずもっと上を目指したい」。そう話すのは、サークルの設立者であり、チームキャプテンを務める高阪さん。もともと高阪キャプテンは、京都の水中ホッケーチームでプレーしていた経験者。大学院進学で広島に移り、初めは大学やスポーツクラブのプールで個人練習を行っていました。それを見た水泳部の知人や社会人などが仲間に加わるように。学生代表の上原さ

んもそのひとり。「水泳経験があったし、純粹に楽しそうだなと思って入部しました。ただ、スティックの扱い方に慣れるまでは、かなり練習が必要でした」

水中ホッケーは、水深2メートルのプール底で、左右・上部からの攻撃をかわすスポーツ。選手一人ひとりの瞬時の判断力が問われるため、ハンドリングやパスなどの基礎練習が欠かせないと言います。また、水中なので声かけはできません。メンバーの息がぴったり合うことが重要だそうです。

水中スポーツの楽しさ・魅力を発信

国内外の大会への遠征費や施設利用費などに、校友会からの「課外活動援助金」を役立てている同サークル。継続して援助を受けるためにも、「チーム全体のレベルアップが必要」と上原さんは話します。そのためには、部員の確保も課題です。現在、Facebookでのこまめな情報発信をはじめ、ラジオや新聞などの取材に応じることで、徐々に注目が集まっていますが、「まだまだメンバー大募集中。プレーしてみないと楽しさが分からないスポーツなので、一度体験に来て下さい」と高阪キャプテン。

大学としてチームを持つのは、広島大学を含めて全国でまだ3校。水中ホッケーの強豪校を目指して、同サークルの今後の活躍に期待が高まります。



キャプテン
高阪 将人
(大学院国際協力研究科 研究員)



学生代表
上原 大知 (生物生産学部4年)



約60年の歴史をもつイギリス発祥のスポーツ。日本では1チーム6名(内2名が交替要員)でプレーする



多くのつながりを育ててきたのは 「人のために何かしたい」という気持ち

第9回
ドリームチャレンジ受賞

学生ボランティア団体 OPERATION つながり



仮設住宅に暮らす住民の方々と
の交流会。手もみマッサージをしな
がら被災者の話を熱心に聞く



つながり隊第11次派遣メンバー。東北でたくさんを感じ、「広島で東北を伝えたい」
という思いがますます強くなったと言う



団体代表・海外ボランティア事業部
岩永 奈々恵(教育学部3年)㊦
ネパール支援チーム代表 望月 康平(教育学部2年)㊧
団体副代表・海外ボランティア事業部・広島災害復興事業部
三山 まりこ(総合科学部3年)㊦

発足のきっかけは東日本大震災

被災地の力になりたい。強い思いを抱く
広島大学生によって、東日本大震災の直
後に発足したのが、学生ボランティア団体
「OPERATION つながり」です。「被災者の
心に寄り添う支援」を掲げ、半年に1回、「つ
ながり隊」を結成して被災地に派遣。掃除
を手伝ったり、住民の皆さんが集う交流会
でお好み焼きをご馳走したりといった活動で、
主に仙台市の仮設住宅をサポートしてきま
した。広島大学も全面的に活動を支援。校
友会などから資金的な助成を行うとともに、
大学内外への活動発表の機会を提供する
などしてきました。

しかし、震災から丸5年を迎えて被災地
の仮設住宅入居者は徐々に減少。12次隊
の派遣を最後に、発足当時から震災復興
事業部が継続してきた仮設住宅での活動は
幕を下ろすことが決まりました。

つながりをキーワードに幅広く活動

「つながり隊は節目を迎えましたが、震災
復興支援は続けていきます」と言うのは、代
表の岩永さん。「発足から5年、人と人との
つながりを大切に活動を広げてきました」。

地域住民のface to faceの交流が防災
につながるという東北の教えのもと、団体
発足の約1年後に「地域交流ボランティア事

業部」を設立。「多くの人が輝いて生きてい
けるよう、人と人との間につながりを作る」
というコンセプトのもと、東広島市社会福
祉協議会の協力を得て、子どもたちとの定
期交流「きんさい家」の開催や、町おこし
の手伝いを行っています。また同時期に、「海
外ボランティア事業部」も設立。ベトナムの
少数民族・チャム族を訪問して交流を深め、
学内外のイベントで彼らの手作り雑貨を販
売することで、文化振興をサポートしています。

新たな支援プロジェクトもスタート

記憶に新しい広島市の土砂災害時にも、
OPERATION つながりはいち早く行動しま
した。発生当時から広島大学生によるボラ
ンティア派遣を行い、後に事業部を設立。
「地域の方の要望を受け、田に入った土砂を
手作業で撤去する“田んぼ彩生プロジェクト”
を立ち上げました」と広島災害復興事業部
の三山さん。田が再生した後も、地域交流
のためのカフェ運営を手伝うなど、継続的
な支援を続けています。また、昨年発生し
たネパール地震の支援チームも結成。代表
の望月さんを中心としたメンバー3名が、昨
年9月に現地に赴き調査を行いました。「ド
リームチャレンジ賞」申請による助成金で今
後も現地に入り、活動を続けていきます。

「OPERATION つながり」では、現在約
80名の学生が活動中。「つながり=東北支



土砂災害被災地での“田んぼ彩生プロジェク
ト”。土砂で埋もれた水路を手作業で掘り起こ
している



ネパールの地震被災地の学校に足を運び、被
害状況や復旧作業の様子を調査した

援というイメージが定着していますが、各事
業部が協力し合いながら、多様なボランテ
ィアに携わっていることを知ってもらいたい
と岩永さん。「つながりを生み出す活動は、
無限にあるはず。同じ思いを持つ人に参加し
てもらい、そこで自分らしい輝き方を見つけ
てもらいたいです」と目を輝かせました。

失敗した分だけ人は成長する。 成長して組織の財産になる。



インタビュー中、「人が財産」という言葉が繰り返し出てくる。「大学時代の財産は友だち」「組織の財産は人」——競合激しい流通業界にあって、独自の出店戦略を貫いてきた(株)フジ。その推進力となって活躍してきた尾崎さんだが、その根っこには人間に対する温かい目線があるようだ。人と人の触れあいを大切にする姿勢の源は、もしかしたら、大きな変化の時代の中で多感な年頃を過ごした大学生時代にあったのかもしれない。

腐った(?) ヨーグルト

恥ずかしい話からしましょうか。
大学1年生、入学して間もない頃です。学生食堂でヨーグルトを注文しました。ところが、食べてみるとこれが酸っぱい。僕は食べるのをやめました。一緒にいた友だちが「どうした?」と聞くので、「腐っとる。腹をこわしたらいけんから食べん」。その友人が食べてみて笑った。「ヨーグルトだから酸っぱいのは当たり前だ」。

僕は、愛媛県の南予、御荘(みしょう)という田舎町で育って、ヨーグルトといえば甘い飲料だと思っていた。いやあ、恥ずかしかったですね。大学時代は、そんな恥ずかしい思いをたくさんしました。

でもね、恥ずかしい思いをしたという経験が大事なんです。そのたびに、知らないことを知り、世界が広がる。恥をかくのが怖くて何もしなかったら、人間、成長しないでしょう。

今は情報が多すぎて、経験する前に情報に頼ってしまうんじゃないかなあ。失敗したくないから、情報だけで、経験せずに決め付けてしまう人が多いような気がします。もっと気楽にいろいろ経験すれば、道は拓けると思います。

氷河期の就職

入学して間もなく、広島港でシージャック事件があったし、学生運動の最後の盛り上がりの中、毎日通っていた学生食堂が燃えたんですよ。ショックでした。浅間山荘事件もあったなあ。ベトナム戦争も末期で、アメリカではラルフ・ネーダーが登場して消費者運動が起こった。転

■尾崎英雄さんのプロフィール

1951年、愛媛県御荘町に生まれる。広島大学水畜産学部で海洋環境学を学んだ後、1976年(株)フジに入社。四国開発部長、フジグラン事業本部長などを歴任した後、2006年5月代表取締役専務執行役員、7月代表取締役社長に就任。

■株式会社フジ

四国、中国地方に97店舗(2016年1月末)を展開する西日本有数のチェーンストア。資本金159億2100万円。従業員数約4,600人、営業利益3053億円(2015年2月期)。東証一部上場。



●その頃の広島大学

テレビドラマ『オレと彼女』で海洋牧場の実現に奮闘する主人公に憧れて水畜産学部へ。ドラマの影響がかなりの競争率だったという。入学後、「海洋牧場はドラマの話で夢物語」という大学の説明に方向転換した学生も多かったとか。



換期だったのでしょうか、騒々しい時代でした。でも、活気がありましたねえ。

私も、よく遊び、社会勉強もしました。ヨット部に入りましてね。同好会かと思いましたが結構厳しかったですよ。サボらないようにサブキャプテンもさせてもらいました。でも、暇を見つけてはバイトして映画を観たり飲み歩いたり。高校までと違って、友だちも全国から集まっているでしょう。話をしても面白かった。学生時代の財産は友だちですよ。

そんな生活を送っていたものだから、結局6年大学に通うことになりましたね。おまけに就職というときには、第一次オイルショックの後で多くの産業分野が採用中止ですよ。「どうしようか」と思っていたとき、下宿先に入社案内が送られてきた。十和(現在の株式会社アステイ)という広島の繊維問屋です。見たら、関連会社としてフジという会社があって「愛媛県の流通業」だと書いてある。松山なら実家にも近いので親も安心するだろうという気持ちもあったので、とりあえず電話を入れてみた。これが、フジ入社へのきっかけです。

中心となる人間を見つけろ

「流通業は伸びるだろう」と思ったのは確かですが、特にこだわりがあったわけじゃない、採用されたから入社した(笑)。入社後「辞めてやる」と思ったことは一度や二度じゃないけど(笑)、入社を後悔したことはありません。未知の世界だったから面白いことがたくさんありました。

特に2年後に人事部に配属されたこと。人事というのは会社の骨格をつくるところでしょう。それまでの店舗での仕

事とまったく違う仕事で、刺激的でした。それに、当時の人事部長(二代前の社長)が個性的な人でね、毎日のように「人事と教育」とか「企業と組織」とか、就業時間後に持論をレクチャーするんです。組織とかチェーンオペレーションとか、すごく勉強し考えていて、何よりも、「企業は人がすべて」という姿勢を貫いた人でした。

当時からフジは、若手をどんどん海外研修に送り出して勉強もさせていました。しかし、部長は「誰でもいい」というわけじゃないんです。あの頃は、従業員のレベルを向上・平準化して全体の力を上げるのが教育だと言われていたけど、「中心となる人間を見つけて育て上げることも大切だ」と、ずっと言っていました。

部長から受けた影響は、とても大きかったですね。

地域と世界をつなぐ

今は時代が変わりました。以前のようにアメリカ型の大規模店をドーンとつくって集客装置とする時代じゃない。地域コミュニティの場として、人に寄り添う店作りが必要です。

例えば、施設内に子どもが遊べるよう

なミニ遊園地をつくる。買い物ついでに気軽に利用していただけるし、子どもを遊ばせても、スタッフやお客さまの目があるので安心です。フジのハウスカードで健康情報を管理したり、店頭でワンコイン健康診断を開催したりといったことも考えられます。流通業が中核となって公共施設、交通機関や病院、銀行などと連携すれば地域を変えていくことだってできますよね。



流通業は地域に根を張ることが第一です。その上で、そのノウハウを海外で展開することも、当然考えられる。昔は海外の流通業に学んだけど、これからは私たちが世界に打って出る。人々が国境を越えて交流する時代にあって「もてなしの心」で対応ができる。地域の皆さんが「フジには英語を話せる人がよーけおってんよ」と言っていただけになったら、それは会社としての誇りであり強みだと思います。

取材の後で



加藤 奨一(総合科学部3年/写真右)
地域コミュニティを作りたいという社長の思いは、仲間との繋がりを大切にしてこられたご経験からでしょうか。私も、大学での経験を未来につなげられるよう、努力していきたいと思います。

仁科 勝介(経済学部1年/写真左)
「人が財産」という尾崎社長の言葉には血が通っていてお人柄が感じられました。アツという間に過ぎた1年間。これからはより多くの人との繋がりを大切にして成長したいと、お話をうかがって思いました。



[受賞]

文学研究科の太田淳准教授

第12回日本学術振興会賞を受賞

日本学術振興会賞が、広島大学文学研究科の太田淳准教授など25人に贈られた。この賞はノーベル賞受賞者など日本トップレベルの研究者による審査で、45歳未満の「日本の学術の将来のリーダーと期待される研究者」に贈られる。広島大学からの受賞者は3人目。

太田准教授は東南アジア史を研究。今回受賞の対象となったのは業績も「近世近代インドネシア地域社会の全体史的研究：環境、国家、イスラーム、外来商人・移民、グローバル経済の影響」であった。「遠い地域や古い時代の出来事でも、その時、その場所で書かれた資料を読むと、当時の人々の生きる姿や思いを強く感じ取ることができます。資料を読むことは、人々の生（せい）の追体験と言えます。そうした資料に触れることによって、私たちは現在の事象が過去の歴史に強く規定されていることに気づきます。」(広島大学ウェブサイト「教員紹介」と語っている。

工学研究院 有尾一郎助教らのモバイルブリッジ Popular Science誌の “Best of What’s New 2015” 賞を受賞

モバイルブリッジは世界初の伸縮型緊急仮橋。地震や洪水などの災害復旧現場までコンパクトに折りたたんで運搬し、わずか数分で展開して長さ20メートルの橋が架けられる。広島大学大学院工学研究院の有尾一郎助教が開発し、企業と共同で実用化研究を進めている。



このモバイルブリッジが米国の月刊科学誌 Popular Science の“Best of What’s New 2015” 賞を受賞した。

この賞は、世界で最も影響力のある科学技術雑誌の一つ Popular Science の編集者が、数千に及ぶ新製品や新技術の中から革新性などを評価し、12部門で計



100点を選定するもので、モバイルブリッジは工学部門での受賞。「世界最速・最強・最軽量の仮設橋」と評価された。

工学研究院の吉田英人教授

工業標準化事業表彰で経済産業大臣表彰

大学院工学研究院の吉田英人教授が、平成27年度工業標準化事業表彰・経済産業大臣表彰を受賞した。吉田教授は物質化学工学専攻で微粒子工学を研究しており、昨年春には「局所的流動制御及び静電場を利用した高精度微粒子分級に関する研究」で化学工学会研究賞を受賞。永年にわたり微粒子工学分野においての粉体の粒子物性評価の高度化に貢献したこと、高精度に粉体の粒子径測定が可能で沈降法を開発し、国内外のJIS及びISOの規格制定に貢献したことが評価され、経済産業大臣賞の受賞となった。



放射光科学研究センター 谷口雅樹特任教授

第72回中国文化賞を受賞

中国文化賞は中国新聞社が主催し、毎年文化・学術・地域貢献の各分野で優れた功績を挙げた中国地方ゆかりの人、団体に贈られるもので、平成27年度の第72回は7人が受賞した。谷口教授は、放射光科学研究センター長として、センターを国内・海外から研究者が集まる共同利用・共同研究拠点へと育成したほか、理事・副学長（教育研究担当）として到達目標型教育プログラムの全学部導入などに尽力した。

[評価]

日本医療研究開発機構 革新的先端研究開発支援事業 (PRIME) 「画期的医薬品等の創出をめざす脂質の生理活性と機能の解明」に

原爆放射線医科学研究所 宮本達雄講師の研究が採択

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) は、医療分野の研究開発およびその環境の整備の実施や助成などを行うため、平成27年4月に設立された。テーマごとに研究を公募し、採択した研究に対して支援を行うもの。このうち、革新的な医薬品や医療機器、医療技術等の創出を目的に公募された「画期的医薬品等の創出をめざす脂質の生理活性と機能の解明」領域で、広島大学原爆放射線医科学研究所の宮本講師が提案した「コレステロールが制御する繊毛機能とその破綻」が採択された。研究は、ヒト疾患の遺伝医学、ゲノム編集技術による疾患モデル作製、細胞生物学を統合した独自のアプローチを用いて、コレステロールの新たな生理機能の解明と繊毛コレステロール制御剤の開発を目指すもの。

採択されたことにより、AMEDの支援のもと、アドバイザーなどとの対話や参加研究者間の相互連携、国内外との連携によるネットワークを形成・活用しながら研究を行うことができる。

世界大学ランキング

広島大学が国内12校入り

世界中の大学を一定の指標で評価する大学ランキング。イギリスの大学評価機関 Quacquarelli Symonds (QS) とイギリスの教育専門誌「Times Higher Education」(THE) によるランキングがよく知られている。昨春秋発表された両ランキングで、広島大学は日本国内で12位の評価を得た。昨年の評価(QS14位、THE15位)よりも着実にランクアップしている。

広島大学は、「スーパースーパーグローバル大学創成支援」タイプA(トップ型)に採択され、今後10年以内に世界トップ100の大学にランクインすることを目標に掲げている。

[交流]

チェコ共和国下院議長一行

被爆70年目の8月6日、チェコ共和国ヤン・ハマーチェク下院議長の一団を広島大学霞キャンパスに迎え、原爆ドーム(旧広島県物産陳列館)の破片の贈呈式が行われた。

学生団体「広島大学原爆瓦発送之会」は、原爆で壊れたドームの破片を元安川の川底から引き上げ、世界各国の機関に寄贈する活動を行っている。昨年は物産陳列館建設100年にあたることから、建物の設計者ヤン・レツルの母国であるチェコ共和国に寄贈することになった。寄贈される破片は建物3階のデンティル(ひさし部分)と思われる。

贈呈式では越智学長から目録が手渡され、破片は10月にチェコに向けて発送された。



マイクロン・テクノロジー マーク・ダーカンCEO

10月6日、越智学長は米国の大手半導体メーカーマイクロン・テクノロジー社のマーク・ダーカンCEOの表敬訪問を受けた。東広島市にある子会社マイクロンメモリジャパン広島工場訪問にあわせたもので、「優秀な学生を受け入れたい」という希望を学長に伝え、半導体の技術開発を行うナノデバイス・バイオ融合科学研究所を見学。教員や学生たちとの懇談会では専門的な議論を行った。



カイロ大学と大学間交流協定

広島大学は40の国(地域)の155機関と大学間協定を締結し、研究や留学生交換などの交流を行っている。

昨年はエジプトのカイロ大学と協定を締結することになり、12月20日、カイロ近郊ギザのスフィンクス前で発表と記者会見を行った。発表には、越智光夫広島大学長とガベル・ナサルカイロ大学長をはじめとして、日本の香川剛廣駐エジプト特命全権大使、エジプト考古大臣、エジプト高等教育大臣などが同席した。

カイロ大学はエジプトを代表する国立大学で、古代エジプト研究の拠点となっているほか、文学部には日本語・日本文学科がある。

交流協定は、昨年夏にエジプトのアル・ダマティ考古大臣が被爆70年の広島を訪れ、越智学長と会談したことがきっかけ。被爆地の大学と紛争続く中東の大学、両大学の交流から世界平和への動きが始まることを期待したい。



[課外活動]

硬式庭球部(女子)

全国大会に出場

広島大学体育会硬式庭球部(女子)が中四国大会で13年ぶりに優勝、東京の有明テニスの森公園での「平成27年度全日本大学対抗テニス王座決定試合」に進んだ。1回戦で中京大学に敗れたものの、ビッグなステージで懸命に戦う姿に多くの拍手が送られた。

アメリカンフットボール部

甲子園ボウル西日本代表校 準々決勝に進出

広島大学体育会アメリカンフットボールチームRACCOONSは2015年の中四国秋季リーグ決勝戦で島根大学を破り、中四国地区代表として西日本代表校準々決勝に進出した。中四国大会優勝は2年連続17回目。

西日本代表校準々決勝は九州地区代表の西南学院大学と11月1日に福岡の平和台陸上競技場で行われ、広島からOBや後援会を中心とする応援団が駆けつけた。(17対7で敗退)

広がる広大ネットワーク

体育会
同窓会

創立50周年記念総会・祝賀会 世代を超えて半世紀分の集い

広島大学体育会同窓会が創立50周年を迎え、記念総会と祝賀会が、平成28年2月6日に広島市内のホテルで開催されました。祝賀会に参加したのは卒業生、在学生など合計なんと約650人。広い会場を埋め尽くす大盛況でした。最も参加人数が多かったのは、サッカー部で、同窓会組織がないなか、100人を超える方々の参加があり、この会を機に名簿が作成できたとか。盛り上がりもひとしおでした。

総会では、長年体育会同窓会をリードしてきた原田康夫第3代会長（元学長）から、山根恒弘第4代会長（工学部卒、ヨット部OB、ヤマネホールディングス(株)代表取締役会長）へバトンタッチが発表されました。（原田氏は名誉会長に就任）

祝賀会は、新会長と山坂哲郎新理事長（教育学部卒、硬式野球部OB、(株)バルコム代表取締役社長）の挨拶、越智光夫学長の祝辞と続き、深山英樹広島商工会議所会頭（政経学部卒、広島ガス(株)代表取締役会長）の音頭で乾杯した後、歓談へ移りましたが、懐かしい仲間と声をかけあい、学生時代に戻って笑うグループが会場いっぱいになり、ステージでのパフォーマンスを見せる在学生の声も聞こえにくいほどでした。

この盛り上がりは、課外活動での世代を超えたつながりの強さをあらためて認識させるもので、「大学でクラブ活動に参加しないのはもったいない」という思いが強く感じられる会となりました。



各クラブの進歩・発展に寄与した方々に原田会長から皇（すめらぎ）賞が贈られた。（皇賞は初代会長を務められた皇幸道第2代学長にちなむ賞）



総会後の祝賀会は約650人の卒業生、在学生などが参加



広島大学体育会同窓会は創立50周年を機に記念ホームページ「HUSApedia」を開設しました。ウェブ上でも結集しませんか。
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sitehusa/FRNT/HUSApedia/index.html>

広島大学・
千田塾

広大卒業生のビジネスネットワーク 広島大学校友会と 2016ひろしまフラワーフェスティバルに参加予定

広島周辺で活躍する広島大学卒業生は多く、中には地域経済界の中心で活躍している卒業生も少なくありません。これらビジネス界の卒業生を中心にネットワークとして、平成25年7月に立ち上げられたのが広島大学・千田塾。学部を超え、広大卒業生なら誰でも参加できます。会長は山坂哲郎さん（教育学部卒、(株)バルコム代表取締役社長）。設立以来2年半で会員は475名（1月末現在）にのぼっており、ビジネス界以外に、教育・行政・医療等のさまざまな分野に広がっています。

千田塾の一番の目的は卒業生間のビジネス交流ですが、それとともに目標として大きく掲げられているのが「在学生・同窓生の就職支援、広島大学の隆盛に資すること」です。「越智学長を励ます会」開催への協力や、広大生プロバスケットボール選手「岡崎修司後援会」の結成、在学生・留学生の交流会招待など、「広大の応援団」としても活動しています。

広島大学校友会と連携して活動する機会も広がっており、平成28年5月の2016ひろしまフラワーフェスティバルには校友会と共同で出展する予定です。



昨年5月の交流会にはホームカミングデー学生チームも参加



沖繩ツアーで沖繩県広島大学同窓会との懇親会も開催（平成27年7月）

【連絡先】

広島大学・千田塾 事務局

広島市中区橋本町7-11 株式会社インタークラウド内

TEL 050-3634-0777 FAX 050-3737-6958

地域や立場、年齢、学部、クラブを超えたネットワークが広島大学校友会。その中には、クラブや地域、世代などのキーワードで広島大学卒業生が活動する有形無形のネットワークがあります。校友会を支え、連携しながら活動する団体や校友会員の活動をご紹介します。

東京広大会 Youth

メーリングリストでつながる 楽しいのがいちばん

首都圏に勤務する20代の広島大学卒業生が集まり、情報交換をしている「東京広大会」Youth。しゃべって、食べて、飲んでという気軽な集まりです。4月には「もんじゃ焼きを食べながらしゃべろう会」を開催する予定。広大を卒業して首都圏に就職する新入社員も集まるとか。多くの卒業生の参加を呼びかけています。

- ・日時：2016年4月16日(出) 19:00～
- ・参加費：2600円(食べ飲み放題)

「初めての方、久しぶりの方、たくさん来てください!」と、主催の祖一さん。経済学部出身で、在学中、校友会のホームカミングデー学生チームリーダーとして活躍した人です。首都圏在住の方、参加、不参加に関わらず、ぜひ、彼にご一報を!

【連絡先】

祖一澄人(平成25年経済学部卒) ss0822ss@gmail.com



地域

東広島市職員と学生の交流会 地域づくりにも広がる 広大生のネットワーク

東広島市と大学生の交流が進んでいます。広島大学在大学生とOBでもある東広島市職員が中心となり、「市役所職員と学生の交流会」を昨年3回開催。10月の第2回交流会にはホームカミングデー学生チームのメンバーも参加しました。「市役所や住民自治協議会の方々が町づくりのために何をされているかを知る機会となった」「大人の視点と学生の視点が異なっていることに気付かされた」「違う意見を結集することで、今までにない新しいアイデアが生み出せると確信した」と、参加に大きな意義を感じたようです。

今後もこうした活動が続き、地域づくりに広島大学ネットワークが貢献できることを期待したいものです。



オトナ 東京広大会

青山アンデルセンで第2回を開催 広島大学東京オフィスを中心に

「Youthと言うには気が引ける」と思った首都圏の広大卒業生は、こちら、「オトナ東京広大会」へ。「気分はバッチリ!」の方も含め、忙しい30、40代が集まって交歓する集まりです。世話人を務める広島大学東京オフィスの北池ゆかりさんから、昨年秋に開催された第2回の集まりのレポートが届きました。

——10月9日(金)青山アンデルセンにて、第2回オトナ東京広大会を開催いたしました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

参加された方からは「学部も学年も違って、みんなすぐ打ち解けて会話が弾むのは、不思議ですね」との嬉しい感想をお寄せいただいております。はじめましての方でも「広島大学」つながりですぐに親しくなれるのは、とても素敵なことですね。カーブの話題でも大いに盛り上がりました。——



広島大学東京オフィスは、広島大学やクラブ、サークル、さらに広島県に関するイベント情報などをお知らせするメールマガジン『広島大学関東通信』も発行しています。メーリングリストへの登録をお願いします。

【連絡先】

北池ゆかり(平成10年文学部卒)

TEL 03-5440-9065 メール koyutk@hiroshima-ac.jp

ホームカミングデー学生チーム

新チームが2016ひろしまフラワーフェスティバルへ

ひろしまフラワーフェスティバル、広島大学校友会の「あさがお広場」には毎年、卒業生や在学生在が訪れてにぎわいます。ブースを運営するのはホームカミングデー学生チームです。新年度に入学する1年生からもメンバーを募集し、新チームとして出展する予定です。

3日間のプログラムなどは新チームとして取り組む予定です。広島市周辺の校友会員の皆さん、お立ち寄りください。

各集まりに参加ご希望の方は各【連絡先】にご連絡ください。

広島大学関係のネットワークやイベント情報をお知らせください。「校友会だより」で紹介させていただきます。

校友会レポート

今年度も在学生の活動を支援

広島大学校友会は、会員在学生(一部は研究者)を支援するプログラムを実施しています。いずれも、校友会ウェブサイトや、広島大学ウェブサイト内『もみじ』(在学生向け)、ポスターなどを通して公募し、校友会会員在学生誰もが応募できるプログラムです。平成27年度も主な3つの支援プログラムで総額約1,310万円の補助を決定しました。

●第9回ドリームチャレンジ賞

34件の“ドリーム”に 528万円を助成しました。

学部・大学院に在籍する校友会員のグループの自主的な活動に対して活動資金を支援するもの。広島大学同窓会が創設し、校友会が引き継ぎました。平成27年度は7月10日までの応募から34件を採択し、総額528万円を助成しました。



平成27年10月1日に行われた助成金授与式



越智グループ代表者から応募ひとりに表彰状が手渡されました。

第9回ドリームチャレンジ賞受賞者と活動テーマ

国際医療研究会 COCO	小田 隆之	外から日本を見ることで医療人のグローバルな資質を高めるとともに、世界平和に向けての理解を深め、実践する
国際協力研究科	隅田 姿	最新ビジュアル技術を用いた効果的な研究成果の国際発信 ～サブ・サハラアフリカ地域における教育開発のための政策提言～
教育学部	枝村 拓磨	イギリスのSaltersプロジェクトに関する研究-日本理科教育への示唆を得ることを目指して-
教育学研究科	鏡原 崇史	自閉症スペクトラムにおける表情の特異性の解明と表情分析技術(FACS)の取得
企業研究会	金城 圭紀	東証IRフェスタ2016 大学サークル対抗投資プレゼン大会優勝
交響楽団	平山 慧	地域における音楽活動-ひろしまに根ざしたオーケストラを目指して-
霞管弦楽団	森田 智子	オーケストラによる医療マインドの育成
馬術部	佐々木 やまと	体育会馬術部、国立大学NO.1の達成に向けて
生物圏科学研究所	津行 篤士	海と川を行き来するクロダイの回遊生態-広島湾のクロダイと太田川のシジミの共存にむけて-
教育学研究科	上山 瑠津子	保育者が参加したい実践研究とは? -実践研究に対するイメージからの検討-
自動車部	塩飽 朋也	全国大会優勝・総合杯獲得への挑戦とモータースポーツの発展を目指して
漕艇部	山本 耕平	インカレ準決勝進出、全国で勝てる部活にすること
教育学部	湯池 華子	食物アレルギーの子どものデイキャンプ
教育学部	笠井 礼志	過疎が進む志和町で、子どもたちの学びを支える「自習室」をつくる
教育学研究科	三宅 英典	保護者は何をもって「子どもの育ち」を捉えるのか
Smiles Production	青野 恵里	インドの教育の問題に学生がアクションを起こす! ~すべての子どもに教育を~
学生ボランティア団体 OPERATION つながり	望月 康平	ネパール地震による被災者の復興支援プロジェクト
教育学部	牛尾 瑞貴	広島県に住む外国人に日本語を学ぶ機会を提供し、またそこから異文化交流、異文化理解の場を広げる
水中ホッケーサークル Hiroshima Sha-rea	上原 大知	広島大学水中ホッケークラブ全国制覇と日本代表選出を目指して
教育学研究科	大坂 遊	「他者の視線」に基づく日中韓における相互理解プロジェクト
Mode for Smiles	赤坂 由梨子	ファッション×国際協力 ~'ファッションショー'ですべての女性が輝ける社会を~
男子バスケットボール部	武内 康佳	体育会男子バスケットボール部全国大会入賞を目指して
生物圏科学研究所	宇都宮 健	食文化を通じた異文化交流
フォーミュラチーム・フェニックスレーシング	富田 海	全日本学生フォーミュラ大会への挑戦
教育学研究科	日原 尚吾	最新の発達理論で生涯発達へ挑む -ダイナミック・システムズ・アプローチの適用-
吹奏楽団	大下 美咲	楽奏 ~お客様と自分たちとがともに楽しむ演奏会を目指して
D A M A けん	寺田 周平	モンゴルにおけるけん玉の普及、及びけん玉活動や国際交流を通して自分自身を成長させる
Rhythmic Dance Club	樋口 洸太	地域貢献・ボランティア活動による広島市のダンスシーンの盛り上げ
教育学部	岡本 克哉	幼児と小学生を対象にしたものづくりチャレンジ
Lingua franca	松本 渚	被ばく者と若者が語り合う場を
書道部	松本 莉加子	書道パフォーマンス
理学部	竹本 健悟	西条の河川における在来種と外来種の保護と駆除
硬式ソフトボール部女子部	守田 渚	硬式ソフトボール部女子部の活動の充実化
法学部	舛田 菜緒	これからの支援のカタチ、広大発!ソーシャルビジネス -Made in Nepal Bagによるネパール震災支援プロジェクト-

●第9回課外活動援助金

23団体などに466万円余を 助成しました。

地区予選を経て全国・世界的規模の大会に出場した課外活動団体に対して、校友会が遠征費、奨励費を援助する課外活動援助金。これまでに延べ148団体に総額1810万円余の援助を行ってきました。

第9回は平成27年1月1日から12月31日までに開催された大会を対象に、申請のあった団体・個人から23を選定し、平成28年2月4日に授与式を行いました。



平成28年2月4日に行われた援助金授与式

第9回課外活動援助金被授与団体一覧

アーチェリー部
アカベラサークル [Plaza de Espana]
アメリカンフットボール部
弓道部・女子弓道部
硬式ソフトボール部 (男子)
硬式庭球部
自動車部
準硬式野球部
女子サッカー部
水泳部
水中ホッケーサークル [Hiroshima Sha-rea]
漕艇部
ソフトテニス部
卓球部
トライアスロン部
馬術部
バスケットボール部 (男子)
バレーボール部 (女子)
フィギュアスケート愛好会
フットサル部・エフ・ドウ
ヨット部・女子ヨット部
陸上競技部
音楽 (個人)

●平成27年度研究助成金

若手研究者と学生に316万円

研究活動に対する助成は、若手研究者、学生への研究費助成というかたちで行っています。平成27年度も15名への助成を行いました。(助成金採択者は『校友会だよりVol.18』で紹介)

多くのご寄付 ありがとうございました。

第9回ホームカミングデーにあたって、広島大学校友会に対して以下のご寄付をいただきました。

広島大学校友会 (ホームカミングデー)
寄付者数 個人81名、団体1団体
寄付額 1,001,000円

広島大学校友会 (ホームカミングデー) にいただいたご寄附は、ホームカミングデー経費として活用させていただきます。

たいへんありがとうございました。今後とも、広島大学ならびに広島大学校友会をどうぞよろしく願い申し上げます。